



呼吸器外科医療録④

突然の胸の痛みや 呼吸苦について



突然の胸の痛みといえば心臓かと思いますが、肺が破れてしぼむ気胸（ききょう）という病気もあります。肺にできた嚢胞という薄い膜の風船が破れ、肺から空気が漏れる病気です。10代後半から20代と60代以降に多い病気です。

若者は背の高い細身の男性に多いのが特徴で、高齢者ではたばこによる肺気腫が主な原因です。肺から大量に空気が漏れると、胸痛（肩のほうから背中）、呼吸苦（特に息を吸うと）が進行し、漏れた空気が心臓も圧迫するので、血圧低下などの

ショック状態となります。破れた穴が小さく肺のしぼみも軽度であれば、自然軽快することはありますが、もろくなった嚢胞は気胸が再発し、高齢者の肺気腫による気胸は自然軽快しづらいため、胸腔（肺と胸壁の間の空間）にチューブを挿入して脱気をする、または原因となる嚢胞を切除、修復する手術が必要となります。

けんこうQ&A 在宅医療④

医師以外で在宅医療を支える人たちは、 どのような人たちですか？



在宅医療は、医師だけで支えているわけではありません。患者さんが自宅で安心して生活をするためには、多くの職種が関わりながら支えています。

例えば、訪問看護師は体調確認や医療処置だけでなく、日々の生活の相談にも対応します。薬剤師は自宅を訪問し、薬の管理や飲み方の確認を行います。ケアマネジャーは介護サービス全体を調整し、必要な支援につなげる役割を担っています。また、訪問介護職は日常生活を支え、理学療法士などのリハビリ職は身体

機能の維持や転倒予防に関わります。福祉用具の担当者が手すりや介護ベッドなどの環境整備を行うこともあります。

在宅医療では「治療」だけでなく「生活」を支えることが重要です。そのため、一人の医師だけで完結することは少なく、多職種が情報を共有しながら連携していきます。

患者さん本人だけでなく、家族も含めて地域全体で支えていくことが在宅医療の大きな特徴です。

